



## 未来へ

日本語コーナーのメンバー 穆 二敏  
鄭 宏娜  
周 慧芬

唐代の詩人白居易の「人間四月芳菲尽、山寺桃花始盛開(世間では4月に花が散ってしまうが、山の寺では今が桃の花盛りである)」という詩句に詠まれているように、4月の北京は、ピンクの桃の花を始めとして黄色い黄梅、連ぎょう、ピンクや白の桜、紫の木蓮など色とりどりの花が町のいたるところに咲き乱れています。PM2.5による大気汚染で少し気分が重くなっていましたが、これらの色とりどりの花々は、ささやかな幸せを運んできてくれました。この春爛漫の4月下旬、林達劉グループ日本語コーナーは3周年のお誕生日を迎え、24日から26日の3日間、盛りだくさんのイベントを行いました。



## 初日 おにぎり大会

日本語コーナー3周年記念イベントの第1弾はおにぎり大会です。幸先の良いスタートを切るために、コーナーのメンバーは2日前から様々な準備に余念がありませんでした。

まず、本格的な日本の味のおにぎりを作るには、本物の日本食材を買うことがポイントです。わさび、鰹節、シーチキン、鰻、大根、かにカマボコ、のり、巻きす…中国で、日本食用食材を買うなら、食材の種類が揃っている日系のイトーヨーカドーがおすすめです。イトーヨーカドーには、調味料、具材、必要な道具など全部揃っています。実際に、目も眩むような多種多様な食材の間を数往復しましたが、予めおにぎり作りの道具や食材の知識を経験者に聞いたり、インターネット上で調べたりしてよかったとつくづく思いました。そうしなかったら、あんなに多くの本物の日本食材を前にして途方にくれていたと思います。いろいろ選んだり、比べたりして、やっと今回のおにぎり大会用の材料を買い揃えることができました。

そして、おにぎりの主役である「ご飯」を炊くことも重要です。イベント当日に日本語コーナーのメンバー3名がお米や炊きあがったご飯を持って出勤しました。また、炊き立ての美味しいご飯も用意できるように、イベント当日の朝、事務所でも一部のご飯を炊きました。中国の米は、日本の米のようなネっとり感が少ないので、もち米を少し入れて炊くなどの工夫もしました。給湯室で米を洗う日本語コーナーのメンバーを目撃した同僚は、おにぎり大会にとっても興味津々で、参加したいと言ってくれ、このようなパフォーマンスも、おにぎり大会の宣伝広報の役割を果たしました。それに、新鮮な食材として、野菜も不可欠です。千切りのキュウリ、ニンジンを用意したのは、日本語コーナーの包丁さばきの達人周慧芬です。いよいよ本番、4月24日のお昼の休憩時間になりました。コーナーのメンバーは、自分の手

でおにぎりを作る楽しさを経験したくて、手ぐすねを引いて待っていました。おにぎり大会で手作りのおにぎりによって『おにぎり姫』又は『おにぎり太郎』になってコーナーで名を上げようと虎視眈々と狙っている人も少なくありません。美味しくて見た目もよいおにぎりを作るために、教えてくれる先生がいたら一番いいですね。林達劉グループには、先生になれる人は生粋の日本人の知子以外にいません。ですから、知子は、トレーニング室に入るやいなやみんなにとり囲まれました。知子を囲む人は、「正真正銘のおにぎりを作るなら、作り方を教わらなくてはならない」と考えていた人もいるし、知子が自宅で作り、持参した本格的な干瓢やシイタケ、タマゴ焼の巻き寿司に食指が動いている人もいました。この寿司は、巻き寿司には欠かせることのない干瓢を北京でようやく発見した知子が、作ったものです。一瞬にして、巻き寿司は売り切れてしまいました。出遅れた人は、残念だと言うしかありません。

美味しい寿司を逃した人は、絶対おにぎりの作り方を習得しなければなりません。知子は、おにぎりのレシピを丁寧に教えてくれ、皆は、見よう見まねでいろいろな具の入ったおにぎりを次々と作りました。できたてのおにぎりは、全てあっという間になくなってしまいました。

おにぎりを食べたら、味噌汁も飲みたくなりますね。おにぎり作りの第一ラウンドが終わった時、味噌汁のよい香りが漂ってきました。穆二敏ができたての熱々の味噌汁を用意したのです。味噌汁が入った大きな炊飯器の前に、皆味噌汁をゲットするために列を作って並びました。日本人が大好きな味噌汁は、私たち中国人もとても大好きで、皆「美味しいね」「うまい」などと言いながら味噌汁を飲み、お代わりをする人も多く、大きな炊飯器は瞬く間に空っぽになりました。穆二敏は、豆腐と海苔を味噌汁の具にしましたが、味噌の香りと海苔の香りの相性が絶妙で、本当に美味しかったです。また、豆腐と濃い褐色の海苔の味噌汁は見た目にも美しく、日本料理の目で楽しむという一面を少し理解できたような気がしました。また、穆二敏は、豆腐を入れてから煮立たせなかったので、豆腐が軟らかく仕上がりが、「本当にいいですね。特に、豆腐はすごく柔らかいですよ」と、知子も味噌汁の味を褒めてくれました。そして、穆二敏は、皆からのリクエストに応じて、美味しい味噌汁の作り方を説明しました。

味噌汁を飲んでから、皆は具について話し合いながら、おにぎり作りを続けました。この頃には、おにぎり大会への参加者数はますます増え、20人を超えていました。テーブルの両側に多くの人が所狭しと立ち並び、台に置かれた材料やおにぎりが取れないくらいでした。

いくつか作った後、手先が器用である康倩は、コツが分かったようです。彼女の三角おにぎりの形は美しく、知子



が作った「芸術品」に最も似ていて、お皿に並べても本当に綺麗です。今日の『おにぎり姫』は、間違いなく康倩だと皆で納得しました。しかし、外見はともかく、「摩訶不思議な」形状のおにぎりもほとんど皆の胃袋に収まりました。残った若干の具材は、仕事が忙しくて参加できなかった同僚にあげ、皆に喜んでもらえ嬉しかったです。

初めておにぎり作りをした人、我流ではないおにぎり作りは初めての人にとっても、やはり自分で作ったおにぎりの味は格別だったようです。おにぎり大会が終わった今でも、おにぎりの味、味噌汁の味は私たちの記憶に残っています。そして、今回は、本格的な巻き寿司にも挑戦したいと、皆で話し合っています。次회가、とても楽しみです。

## 2日目 クイズ大会

初日に日本人の先輩の知子からおにぎりの作り方を学び、皆はそれぞれ個性豊かなおにぎりを作って楽しみました。長く並んだテーブルを囲み、楽しくおしゃべりをしながら日本で最も伝統的な家庭料理のおにぎりを作り、味噌汁と一緒に食べて、とても美味しかったです。

このように、日本語コーナーでは、専門知識を勉強したり、日本語能力をアップさせたりすることができるだけでなく、美味しい日本料理も食べられるということで、メンバーの参加意欲が一層高まりました。

2日目はクイズ大会でした。日本語が分かる人なら誰でも参加資格があるので、30人以上の同僚たちがクイズ王を目指して、研修室に集まりました。

今回のクイズ大会は、化学部の日本語達人の孫叡が司会者を務めました。孫叡は、事前に内容が充実したとても分かりやすいPPTを準備してくれました。そして、クイズ大会は、ウォーミングアップ、スペシャルクイズ、本番に分けられていました。ウォーミングアップクイズの第1問は、振り仮名に対応する漢字の問題でした。誰かが答えに迷った末、四択問題の一か八かに賭け、手を挙げて答えましたが、残念ながら間違っていました。しかし、意外なことに、賞品係の温珍がその人に賞品——チョコレートを配ったので、皆が訝く思った時、コーナー長である楊凌波が「残念賞もありますよ」と言いました。へえー???「間違っても賞品がもらえるのですか?」ということで、皆はますますやる気を出し、それからは答えがわからなくても、われ先にと争うようにとりあえず手を挙げるようになりました。司会者がクイズの内容を読み終わるやいなや、ほとんど全員が手を挙げています。一番先に挙手をした人に答えても





らうようにしていましたが、司会者ももう誰が先なのか分からなくなりました。このような賑やかな雰囲気は最初から最後まで続き、問題が進むに連れて会場の雰囲気はヒートアップしてきました。

クイズの問題の内容は、言語知識から一般常識、地理、文化まで実に多岐にわたっていました。特に、クイズの中のなぞなぞ問題はとても面白かったです。例えば、「9. タバコを吸いすぎた人がセキをしている。そのタバコ何本目?」。選択肢:A. 1本目 B.3本目 C. 5本目 D.10本目。皆はなかなか答えが思いつきません。そのとき、知子が突然立ち上り、風邪を引いたように咳をする真似をしました。「ゴホン、ゴホン」という音から、一部の人は答えが分かりました。皆さんもお分かりですね。

このような面白いエピソードが他にもたくさんありました。ほとんど全員が賞品をもらい、とても楽しく、30分があつという間に経ってしまいました。皆、おいしいチョコレート、ゼリーなどをゲットして、席に戻り、笑顔で午後の仕事に戻ることができました。クイズ大会が毎週あればいいなあと思うようになりました…

### 最終日 発表会

初日の賑やかなおにぎり大会、2日目のとても盛り上がったクイズ大会を経て、最終日は3周年のメインイベントである——発表会の当日になりました。

日本語コーナーでは、所内のあちこちに手作りの綺麗なポスターを貼ったり、所内で可愛い招待状を配ったりして、多くの所員に大々的にアピールしてきました。そして、日本語コーナーのメンバーも、この発表会のために、事前にいろいろな出し物を準備して、練習を重ねてきました。

12時25分の発表会の開始時間の5分前には、観客の皆さんは昼食を早く済ませて研修室に集まり、ほぼ満席になりました。研修室では、プロジェクターで日本語コーナーがこの1年間行ってきたさまざまなイベントや発表の写真で作製したビデオ映像を流しています。真面目に勉強している顔、お互いに協力し合い一つのことをしている姿、心からの笑顔、そして純粋に友を労わる様子など、さまざまなビデオ映像を見て観客の皆さんは、笑ったり頷いたり、大いに盛り上がっています。

12時30分、コーナー長である楊凌波の挨拶で3周年イベントの発表会の幕開けです。楊凌波はまず、日本語コーナーのメンバーを代表して、魏先生、リンダを始めとする事務所の皆に感謝の意を表しました。そして、日本語コーナーのこの一年間の成長を振り返り、皆で協力して有意義な活動やイベントをたくさん行いましたが、まだ改善の余地がたくさんあるので引き続き努力しなければならないと強く訴えました。最後に、より多くの所員が日本語コーナーの扉を叩き、加入してくれるように、事務所の皆さんが今後も暖かい目で日本語コーナーを見守ってくれるように、熱い想いを語りました。

いよいよ、メンバーの発表が始まります。まず最初は、陳昱と康倩の美人コンビが、Kiroroの曲「帰る場所」を歌いました。美しいメロディーに合わせて、二人は甘い歌声を披露しました。「いつもまわりを見渡すと 温かな笑顔がそこに ... 僕らにはいつだって 帰る場所がある 空高く 舞い上がる 希望抱き 明日へ 向かい 羽ばたこう」という明日に向かって積極的になれる曲は、私たちの応援歌だと心から思いました。

次は、日本語コーナー女性群の多くが登場して、『らき☆すた』というアニメのアフレコをしました。女性群による軽

快で滑稽なコメディアニメのアフレコで、観客の皆さんは最初から最後まで笑っぱなしでした。そして、唯一男性としてゲスト参加した郭成昇は、責任重大なカメラマン役と、お父さん役の吹き替えも見事にやり遂げました。観客の皆さんから熱い拍手喝采が湧き起こりました。

林達劉グループは、女性所員の人数が圧倒的に多いですが、日本語コーナーには「酷(かっこよくスマート)」な男性所員がたくさん加入しています。男性群の一番手として、機械部の瀋鑫は『象の背中－旅立つ日－』を朗読しました。幻想的な画面や音楽と瀋鑫の感情溢れ心に響く朗読によって、観客の皆さんは、まるで父親の象の世界に入り込んだような不思議な感覚になりました。知子にいたっては、瀋鑫の朗読にぐっとくるものを感じ、「今まで一緒に歩いた人よ、残していくことを許して欲しい」というところで、感動して涙を流しました。

人生は旅です。その中で、数え切れない「See you」、「再見」がありますが、それらは別れではなく、必ず再会できる日が来ることを信じていますね。化学部の孫叡は、松下優也の「See you」を歌って、歌声でこの気持ちをみんなに伝えました。途中で少し歌詞を忘れるハプニングもありましたが、感情溢れるパフォーマンスや魅惑的な歌声で、観客の皆さんを魅了しました。

続いて、同じ化学部の特許法に精通していて「特許法男」と呼ばれている、いつもはとても真面目な葉鵬が、感情溢れる『彼女と彼女の猫』を朗読しました。素朴な画面を背景にして、葉鵬は猫の目に映る女の子と猫の女の子に対する思慕を皆にソフトな声で語りました。こんなに繊細でやさしい感覚の持ち主である葉鵬は、しなやかな心を持つ男性なのだと思直した女性群も多かったのではないのでしょうか。

もうそろそろ、発表会は大詰めに近づいてきました。男性群が、女性群の『らき☆すた』のアフレコに負けるものかと、動物世界のカフェでの面接会場が舞台となっている『しろくまカフェ』のアフレコを披露しました。男性群は、穏やかな白熊、のろまな象ガメ、食べるのが大好きなマンドリルと可愛いパンダの登場キャラクターを、まるで声優みtainなパフォーマンスで演じきり、観客の皆さんから大喝采を受けました。男性群に混じって紅一点参加した宋曉雯は、このアフレコに華やかさを添えました。



30分はあまりにも短くて、発表会はそろそろ終わりの時間になりました。副所長の張先生が、魏先生、リンダ、李先生及びパートナー全体を代表して、日本語コーナーに3周年記念ケーキと共に、3周年イベントにお祝い言葉を述べてくれました。張先生は、所内の「業務外組織」である日本語コーナーが果たした役割を肯定してくれると同時に、日本語コーナーがこれからもっと成長して、もっと大きな役割を果たすようになることを期待すると言ってくれました。日本語コーナーのメンバーにとって、とても大きな励みとなりました。

最後は、例年のように皆が参加する合唱で締めくくりました。今年の合唱曲は、アンジェラ・アキの「手紙～拝啓 十五の君へ～」で、機械部の周言喆が電子ピアノで伴奏しました。「今 負けないで 泣かないで 消えてしまいそうな時は 自分の声を信じ歩けばいいの」という「十五の君へ」の手紙ですが、人生のどの段階においても、このような前向きな態度が必要であると思っていました。心を込めて精一杯歌った後、メンバーはそれぞれの願いの言葉を書き込んだ折り紙の飛行機を飛ばしました。それぞれの願いが叶うことを願いながら。

最後に、最初から最後までじっくり注意しながら聞いていた魏先生が、当日アメリカ出張で不在の所長のリンダとを代表して、日本語コーナーの3周年イベントを総括してくれました。魏先生は、メンバーの日本語の不適切な使い方を指摘してくれただけでなく、日本語コーナーの今後の発展についても貴重なアドバイスや意見を述べてくれました。例えば、日本語コーナーのメンバーの視野をより広くするために、北京駐在の日本人の方との交流会を行えばなど、今年4年目には是非実現させたいと考えています。

日本語コーナーは、魏先生のような先輩の方々のサポートのおかげで、ここまで歩んできました。私たち皆が、この後も引き続き努力していけば、日本語コーナーは、きっと明るい未来を迎えることができると確信しています。来年また皆様にさらに進化した日本語コーナーを披露できるよう、日々怠ることなく努力し続けることを固く決心している日本語コーナー一同です。



責任者： 代表取締役 弁護士 弁理士 魏 啓学 (Chixue WEI)  
社長 弁理士 劉 新宇 (Linda LIU)  
担当者： 所員 張 輝 (Ashley ZHANG) 林 知子 (Tomoko HAYASHI)

林達劉グループ 企画室 (Business Development Department, LINDA LIU GROUP)

〒100013 中国北京市東城区北三環東路36号 北京環球貿易中心C座16階

Tel: 86-10-5825-6596 (WEI) 86-10-5825-6089 (LIU) 86-10-5825-6366 (代表)

Fax: 86-10-5957-5201 (代表)

E-mail: [jpnews@lindaliugroup.com](mailto:jpnews@lindaliugroup.com)

Website: <http://www.lindaliugroup.com>